

60 「管理機プラス土壤消毒機」で立枯病を効率的に防除する

福島県たばこ試験場・平成12年度試験成績概要

1 部門名 特用作物－タバコ－病虫害防除・作業機械・作業技術 分類コード 06－01－23282900

2 担当者 野田正浩

3 要 旨

タバコ栽培に大きな被害をもたらす立枯病を、管理機に取り付けた土壤消毒機により効率的、省力的に防除する方法を検討した。対照区として、ジョウロによる手散布処理区を設けた。処理は秋処理とし、畦立被覆を同時に行った。薬剤は、カーバム剤(NCS)を供試した。薬量と処理方法は、管理機処理区が16.5 $\frac{\text{kg}}{\text{ha}}$ 及び24.7 $\frac{\text{kg}}{\text{ha}}$ を原液のまま30cm間隔に処理し、手散布処理区が25 $\frac{\text{kg}}{\text{ha}}$ を水で5倍に希釈して畦幅に処理した。

(1) 立枯病は、薬剤処理により発病の遅延と抑制が認められ、7月6日時点の発病度は、無処理区の5.7に対し、処理区では0であった。処理区においては7月下旬から発病が認められ、8月10日時点の発病度は、無処理区の31.5に対し、管理機16.5 $\frac{\text{kg}}{\text{ha}}$ 区では6.2、管理機24.7 $\frac{\text{kg}}{\text{ha}}$ 区では1.3、手散布25 $\frac{\text{kg}}{\text{ha}}$ 区では5.1と低かった。

(2) 疫病の発病率は、無処理区で4.9%であったが、処理区では認められなかった。

(3) 薬害調査を移植後7日目、15日目、30日目に行ったが、薬害は認められなかった。

(4) 以上の結果、管理機を用いたマルチ畦内土壤消毒でカーバム剤(NCS)を原液で使用した体系は、手散布で畦幅に薬剤処理した方法と同等の防除効果があり、立枯病の発生を遅らせ発病度を低く抑えることが出来た。また、疫病の発生も抑えられた。薬剤処理は、希釈を行わないため、効率的に作業することが可能であった。